



臨床研究に関する情報の公開

作成日:2021/10/16、更新日:2023/3/20

研究課題名	Enterobacter 属、Citrobacter 属、Serratia 属および Klebsiella aerogenes を起炎菌とした血流感染症：第 3 世代セファロスポリン耐性の予測因子、耐性が再発および死亡に与える影響
研究の対象	2013 年 1 月から 2022 年 12 月までに入院された方が対象
研究目的・方法	<p>Enterobacter 属、Citrobacter 属、Serratia 属および Klebsiella aerogenes という細菌は潜在的に AmpC -ラクタマーゼという酵素を保有しています。AmpC -ラクタマーゼはセファロスポリン抗菌薬を加水分解する酵素で多くの腸内細菌群が染色体上に AmpC 遺伝子がコードされています。AmpC 酵素は通常微量しか産生されておりませんが、-ラクタム抗菌薬の暴露により産生の抑制が解除されると、変異体の誘導や選択圧によって高レベルで発現することが可能となります。AmpC -ラクタマーゼを産生する微生物によって引き起こされる感染症は重大な罹患率と死亡率に関連しているため、抗菌薬に対して耐性となる危険因子を知ることは治療薬を選択する上で重要な判断材料となります。そこで、治療薬の一つである第 3 世代セファロスポリン抗菌薬に対して耐性となる危険因子を探索すること、および第 3 世代セファロスポリン抗菌薬の耐性が臨床経過にどのような影響を与えるのか後方視的に調査を行います。</p> <p>研究予定期間：倫理委員会の許可日から 2026 年 3 月まで</p>
研究に用いる試料・情報の種類	調査項目は年齢、性別、体温、並存疾患、免疫抑制剤・抗悪性腫瘍剤・ステロイドなどの使用状況、腎機能、白血球数、C 反応性タンパクなどの採血データ、想定される侵入門戸、外科的治療やドレナージなどの実施状況、90 日以内の入院歴、長期入院の有無、30 日以内の抗菌薬投与歴、30 日間以内の再発、30 日間以内の死亡などです。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先 研究責任者： 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 薬剤部 主任 小林 和博 〒530-8480 大阪市北区扇町二丁目 4 番 20 号 電話 06-6312-1221 FAX 06-6312-8867</p>